

- 1 開催日時 令和7年3月17日（月）午後2時～3時50分
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎3階 会議室303、304
- 3 出席者 小川委員長、阿部副委員長、板橋委員、清水委員、駒村委員、
山崎委員、小水内委員、染谷委員、宇津野委員、北村委員、桐山委員
- 4 欠席者 齊藤委員、押田委員、今委員、中村委員
- 5 事務局 今井市民環境経済部長、元田産業振興課長、岩立産業振興課長補佐、
富澤商工振興係長、商工振興係 保科主査、牧野
（株）NTTデータ経営研究所 瀬田川氏

6 傍聴者 2名

7 議題

- （1）市の農業の現状と課題・基本方針の方向性について
- （2）市の工業の現状と課題・基本方針の方向性について
- （3）市の商業の現状と課題・基本方針の方向性について
- （4）市の分野横断的な連携について

8 議事内容

○委員長 議題が4つございまして、まず議題の1からです。

市の農業の現状と課題・基本方針の方向性について審議をしていきたいと思っておりますので、まず事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、資料1、スケジュールを御覧ください。

第2次産業振興ビジョン策定に向け、前回12月17日の会議にて、アンケートの現状について、産業振興ビジョン事業の評価及び白井市の産業の現状について御審議いただきました。今回は、本来予定していた全6回の会議のうちの第3回目となります。

資料1、策定スケジュールについてですが、現行のスケジュールについて改めて確認したところ、基本方針及び素案について十分な審議をするために、来年度、回数を1回増やさせていただきまして、スケジュールを進めさせていただければと考えております。

スケジュールに変更が出るような形となりまして、大変申し訳ございません。各委員におかれましては、日程調整に御協力いただけるようお願いいたします。

スケジュールについては、次第にあるとおりです。

それでは、資料2の第3回産業振興ネットワーク会議資料を御覧ください。表紙下段の議題を御覧ください。

本日の会議は、議題1から3で市の農業、工業、商業の現状と課題、基本方針の方向性に対する皆さんとの意識を合わせた上で、基本方針の素案作成に向けた方向性を、議題4で観光業のあり方を含め、市の横断的な連携について御審議いただければと考えております。

す。

これまでに実施した調査結果、分析結果を踏まえて、次期産業振興ビジョンにおいて取り組む課題や対策の案について、御意見を頂ければと考えております。

こちらを進めていく上で、取りこぼしている問題や、より効果的だと考えられる案がありましたら、御意見を頂けると幸いです。

なお、今回の審議では、より現実に則した意見を徴収するために、各分野担当委員の皆様からは、事前に御意見という形で頂戴しております。

また本日も、皆さんの御意見を頂戴できればと思います。

では、次のページの上段を御覧ください。次期産業振興ビジョンの目次構成案となります。

第1章ではビジョン策定の目的などを、第2章では全体ビジョンを、第3章以降では各分野のビジョンをお示しします。

次期ビジョンにおいては、分野ごとに現状、課題、ビジョンなどをまとめた構成にさせていただきます。

そして、推進の方法を説明するというようなつくりになっております。

参考としまして、下段に現行の構成という部分で記載させていただいております。

ここまでの構成の話になります。

それでは、農業分野の説明をさせていただきます。1枚につき2ページずつ印刷させていただいておりますので、字が小さく恐縮ですが、資料のページで説明を進めさせていただきます。

6ページの全体像につきましては、記載のとおりとなりますので、説明は割愛させていただきます。

7ページから17ページ、こちらに関しましては、これまでに今までの会議でお示ししました現状分析及びアンケートの分析ということになります。

ページ飛びますが18ページを御覧ください。

ここからが新しい部分となっており、インタビュー結果になります。

これまでにアンケート等で把握した問題について、インタビューを踏まえ深掘り、分析をいたしました。

表の構造としては、2列目が農業事業者から得られた問題を事実として記載させていただいております。

3列目は、2列目にある問題の背景及び構造の原因、分析という部分で結果を記載させていただきます。

続きまして、20ページを御覧ください。

こちらはアンケート及びインタビューの分析により、導き出した課題を整理したものになります。

資料に戻りますが、13ページを御覧ください。

20ページの分析結果は、こちらのアンケート結果、右側の表、現在抱えている問題を把握した上で、参考にさせていただき導き出したようなものになっております。

本日は、このほかに配付させていただきました農業分野における事前聞き取りの結果というものを各委員の机の上に置かせていただいたもので、こちらを追加という形で、資料として本日配付させていただきます。

こちらは資料送付後に、全委員ではございませんが、それぞれの分野の委員の方に意見を頂戴いたしまして、載せさせていただいたものになります。

赤い枠の部分に関しては、資料送付後に追加させていただいた部分となります。

農業におきまして、このほかに取りこぼしている問題や、より効果的だと考えられる対策等ございましたら御意見を頂ければと思います。

また、解決策の方向性について、異論のある点や代替策、追加の案等ございましたら、御意見を頂きたいと思っております。

足早ではございますが、農業分野に関しての報告は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から御説明いただいたのですが、御不明な点、確認したい、もう少し詳しく聞いてみたいというところがありましたら、遠慮なく御質問をお願いします。

また、農業関係の委員の方がいらっしゃるの、そちらの方々に対しても、同様の趣旨のことを尋ねられても構いません。では、進めてください。

一応、確認しておきますと、こちらの小さいほうの資料なのですが、これがコンパクトにまとめられているのですけれども、課題が4つあります。

生産力の増強から始まって、高付加価値な販路の開拓という4つの課題があって、それに対応する問題というのが5つ示されていて、解決の方向性というのがそれぞれ記述されています。

それに対する聞き取り調査の意見が、ここに、見当外れのものもあったとしても、そこは度外視して、いろいろな意見を寄せてもらったというところで、これらを検討していただければと思っております。いかがでしょうか。

どうぞ、●●委員。

○委員 委員の●●です。ここに対応する問題、解決策とそれから意見と、ある程度まとめられておるのですけれども、はっきり言って、就農が進まないというのは、やはり後継者がいない、それから労力がかなりかかるということで、ある程度の問題になっていると思います。

僕自身は梨農家で、36になる子供がいるのですけれども、いまだ就農するか決められない状態です。

何か魅力があれば就農はするのですが、人手がかかり過ぎるということで決めら

れない状況です。

ここに担い手の確保とあるのですが、ハローワークやシルバー人材センターの皆さんの力をお借りするという方法もあります。

私は梨組合の役員をやっており、毎年、シルバーさんから講習をお願いされます。

例えば花粉つけ講習や、剪定の技術の講習などありますが、去年、今年と希望者がおらず講習も中止になっています。

今、農地支援機構などもありまして、第三者がやりたいといったときに、農地支援機構を通して農地の貸出しなどもやっているのですが、家が圃場のすぐ近くにあって、家のそばの圃場は貸したくないみたいな実情もあります。

問題はここにいっぱいあり解決策は出ているのですが、それでは計り知れない問題があると思います。

以上、現状的には、そんな感じです。

○委員長 ありがとうございます。

●●委員に質問したいことがあります。

分野外かと思うのですが、2024年に米の市場価格が上がっていて千葉で恐縮なのですが、10キロ7,000円超えているのです。

その状況で、農家の方の実入りは増えているのですか。

○委員 うちも米も作っており、農協や、米専門で扱っている業者が高くなったのはここ1年ぐらいでしょうか。

実際、この間テレビで、米が今までの1.7倍ぐらいしているとやっていました。

しかし、米農家には、1.2倍とか1.3倍ぐらいじゃないですか。

仲買、仲介業者さんなど業者さんのもうけになっているのかなと思います。

うちの場合は、直売で出しています。その場合は今年、米が上がっても、逆に上げられない。

○委員長 上げられないのですか。

○委員 はい。例えば今まで30キロ8,000円を出していたのです。

今年は多分、農協さんの買取りで、9月の時点で1万2,000円。それだって1.5倍です。

しかし、個人で売っているのは、そこまで上げられていないのです。1万円がやっとです。

では、買わなくてもいいですよと言ったら、そこでもう終わりになってしまわないのですか。これは全然知らない人に売っていたわけではなくて、みんな知り合いなのです。

今年その値段で出しているもので、知り合いを通じて来るのです。うちだって、そんなにいっぱいやっているわけではないのです。

2年、3年前よりは良くなっていますが、今のスーパーとか小売り業者の値段ほどは売れていないです。売れてないというか、実入りしていません。

ただ、このぐらいの値段ならば、米農家もこの後、機械を入れ替えたり、やっていけるのではないかなという情報は得ています。

1俵あたりの単価があるのですけれども、最低でも2万5,000円ぐらいないと、もうやっていけない。

値段がもっと高ければいいのですが、そうなれば、今度皆さんの、買う人が本当に2倍、3倍になってしまうじゃないですか。そんな現実があります。

○委員長 その状況で、新規の就農とか、現状の農家の方々がちょっと農地を増やす、田んぼを増やすという意欲は上がるものなのですか。

○委員 個人では機械とか買えないので、結局は、大規模農家にやってもらうような状態です。

○委員長 農機は非常に高価なものですが、それをシェアするという案がこの中に1件出ているのですけれども、それは現実的でしょうか。

○委員 みんな収穫は、同時期なのです。米なんか特に、天気のいい日にしか稲刈りできません。シェアした場合、じゃんけんで、どっちが先にやるかとなったとしても、例えば、その後、台風でやられちゃったら、刈取りできなくなってしまうので、シェアというのはなかなか難しいです。

○委員長 品種を変えるしかないですよ。早生なのか、それとも遅く収穫できるものなのか、もし米で言うのであればですが、それは嫌ですよ。

○委員 現実、この辺りでは、コシヒカリという品種が一番作られていると思います。そのコシヒカリという品種は、あまりいっぱい取ってしまうと倒伏してしまうのです。肥料を入れれば、それだけ取れるのですが、倒伏したら今度は刈取りに困ってしまう。そういう現実があるのです。なかなかシェアというのは難しいと思います。

○委員長 ●●委員。

○委員 この間、新聞で、多古町がそういった農機のメーカーさんと連携して云々とやっていたのですけれども、そういったことは、可能なのですか。

○委員 白井に関しては、そんなに米をいっぱいやっている人はいないのです。

○委員 やはり梨のほうが多い。

○委員 そうですね。梨、プラス、普通畑です。実際に田んぼ少ないじゃないですか。手賀沼のほうと、あと神々廻の辺りしかないのです。

白井は米に関しては、例えば補助金も出ていないですし、その辺は主力ではないと思います。

○委員長 新しい作物で、イチゴにチャレンジしてみないかという意見もあるのですが、どうお考えになりますか。

○委員 梨は、例えば新規で始めようとしたら、梨棚を作って、多目的防災網を張るのに、棚を二重に張らなくてはいけないのです。大体10アール当たり200万以上のお金がかかる

わけです。苗木って大体こういうものなのですが、梨が収穫できるまでに5年ぐらいかかるのです。1ヘクタールやった場合、2,500万ぐらいの資材を投資して、収穫できるのが5年後だと。そこなのです。

でも、イチゴというのは、お金をかけてハウスを建てても、苗木を植えれば、次の年も収穫できるのです。だから例えば観光農園とかでやって、お客さんが入れば、二、三年でペイできちゃうのではないのでしょうか。

○委員長 ただ、後発になりますよね。先行している外房の地域だとか、南房のほうとか、あと九十九里のところとかがありますからね。

○委員 あと、味ですね。あそこはおいしいとなれば、いっぱいお客さんが来ますけれども。ということは、ある程度、いい肥料を入れて作らないといけないと思うので。あと品種ですよ。

○委員長 そうですね。

○委員 この間、ある銀行さんに行ったら、別会社つくって、いわゆるイチゴ農園を始めて、それを事業化するという話がありました。その事業化というのは、いわゆる後継者を育成するため、学ぶための農園という形で始めているというお話はされていました。

○委員 イチゴ農家なんかは、結構そういうのをやっていますよね。もちろん普通畑でも、栽培の方法とかを学びに来ている人もたくさんいます。

○委員長 市が提示した、この表に基づいて、何が一番、優先順位が高い課題になりますか。

○委員 もちろん全部が全部、何が一番ということもあるのですが、私としては人手不足です。

○委員長 もし優先順をつけるのだったら、人手に注力してほしいということですよ。

○委員 そうですね。ただ、野菜でローテーションがきくようなものであれば、例えば小松菜を生産するとなると、年に五、六回転できるのです。

そうすると、例えばパートさんとかアルバイトを雇ったとしても、一年中雇用できます。しかし、梨の場合は、収穫は2か月なのですが、その前にやるのがいっぱいあります。

そうすると、人は、常勤できるところに行ってしまう。だからといって、なかなかフルで雇用するとなっても、今度は持ち出しが大きくなりすぎます。

○委員長 梨の売価を上げていくという点については、どう思われますか。

○委員 1個300円も400円もしたら、買わなくなってしまうでしょう。

○委員長 もう限界に来ているわけですね。

○委員 宮崎のマンゴーと同じになってしまう。1個何千円もしたのでは私たちは簡単には買えません。

○委員長 現場の意見を集約するに当たって、重要なのは、やはり担い手、人手になるようですね。それについての課題解決に向けた取組について、行政が支援してくれることが

望ましいということですね。

○委員 そうですね、でも、難しいですね。

○委員長 あと後継者のことを考えれば、やっぱり農業で生計が成り立つというのが理想ですね。

○委員 農業法人なんかは、きちんとやっているのです。絶対できないことはないと思うのです。そういう法人に行って、どういうふうに行っているのかを勉強するというのもありますよね。

○委員長 そうですね。単純に規模の経済に勝って法人が強いのか、それとも何らかのノウハウがあって強いのか。そこは見極めてもらったほうがいいですね。勉強会で学べる場があったほうがいいですね。

○委員 季節野菜とか、季節ものというのは、天候にもあまり左右されないし、そういうのはありますよね。梨は、このところ天気はずっと暑いぐらいで、晩品種でかなりロスが増えているのですが、でも曇天で雨ばかり降った年というのは、完全にマイナスになりますので、逆にこのぐらいであまり暑くならない、天気が良ければ、梨の場合はいいのですが。

○委員長 昨年みたいに、ああやって暑い日が続いた場合というのはどうなのですか。

○委員 正直、早生品種、例えば皆さん知っている幸水とか豊水は、すごく良かったです。でも、その後の大きくなる新高のロスが出て、かなり捨てたのです。

○委員長 天気はどうしようもないですからね。

○委員 そうですね。

ただ、今年、農政系のほうとしても、データセンター等の話もあります。

○事務局（岩立） 農政系の岩立と申します。今、●●委員がおっしゃったのが、桜台のほうにインターネットのデータセンターを持っている株式会社インターネットイニシアティブさんという会社があるのですけれども、略してI I Jさんというのですが、そこにアグリ部門がありまして、今、白井市の水田で、自社製品の実証実験をやっています。平塚の水田なののですけれども、自動開閉水門です。

○委員 自動開閉バルブです。

○事務局 それを今度、横展開で梨の何かに使えないかということで、気象データを少し取ってみようということで、この間話し合いを進めたところです。今後、I I JさんのほうのD Xのところですか。皆さんも聞いたことがあるスマート農法、そういったところに少し梨も力を入れて、晩生梨、新高とか、そういったところに影響がどのように出ていくかということで、データを取っていかうということで進めていかうとしているところになります。

以上です。

○委員長 今、市としては、データセンターをやっているI I Jさん、そこと連携して、

その次の展開についての取組を今やっているということですよ。ありがとうございます。

ほかに農業関係の質問や御意見等ございませんか。

どうぞ、●●委員、お願いします。

○委員 ●●と申します。今、●●さんが、それは前の会議のときもお聞きしたのですが、やはり晩梨がとれなかったのですね。私はここに住んで40年近いのですけれど、最初に新高を見たときには本当に驚きまして、あんなに大きな梨があるものかと思ったぐらい感心でしたが、この温暖化で梨の品種改良というか、暑さに強いものをつくるというのが始まっているのですか。

○委員 まだです。暑さに強い品種というのは、なかなかない。結局、長い間あの温度にさらされるから駄目なのかもしれません。

○委員 新高とか、花が一斉に咲くのですってね、梨って。それで、ずっと最後になって大きくなるのが梨なのよって。それもすごい摩訶不思議というか。花の咲くのがずれているのかなと思ったら、一緒というのを聞いて、それもここに住んで初めて知ったことだけれど。

でも、多分これから温暖化はますますと思うので、品種改良しなきゃいけないですよ。

○委員 それは、国のほうの試験場というか、そこでそういう品種をつくってもらい以外、個人的にはできないですよ。

○委員長 そうですね。大きな話ですよ。

○委員 もう一つ、先ほども事務局から御説明があった I I J さんのデータセンターとタイアップしようかという話ですが、梨畑を見ると分かるのですけれども、白い網を張ってあるところと青い網が張ってあるところです。白でも虫の入らない細かい網があるのです。それと、青でも虫の入らない細かい、バッシンが入っていて絶対、蚊も入ってこないような網があるのです。例えば白の網だと、青と白だと照度的に違うじゃないですか。それが、どのくらい違うか、それを今 I I J さんのほうとやってみようという話もあります。

それで、例えば高温で今までどうしようもなかったのを、少し暗めの青の網だったら、多少なりとも遮光性が違うので、青だったら少し違うよみたいなことがあれば、被覆するもので変えて、物を悪くならないようにしようという、取組をしようと思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

あらかじめ用意していた時間を少し超えてしまったので、議題1については、ここで締めて、そのほかの質問は事務局等に対応して下さってもいいですか。

○事務局 分かりました。

○委員長 では、事務局をお願いします。

では続きまして、議題の2の市の工業の現状と課題・基本方針の方向性について、事務局に説明をお願いしたいと思います。

○事務局 では続きまして、工業分野について説明させていただきます。工業分野においても農業分野と同じようなつくりになっておりまして、22ページが工業分野における全体像のような形で記載してあります。こちらにつきましても説明を割愛させていただきます。

22ページから33ページ、ここまでがこれまで第1回会議、第2回会議でお示しさせていただきました現状分析及びアンケートの分析となります。

ページが飛びまして34、35ページを御覧ください。

ここからが新しい部分でインタビュー結果になります。農業分野と同じように、これまでアンケート等で把握した問題について、インタビューを踏まえた深掘りをさせていただきまして、表の2列目が工業事業者から得られた問題を事実として記載させていただきまして、3列目が2列目の問題にある背景の構造及び原因の分析結果という形で載せさせていただいております。

続きまして、36ページを御覧ください。

農業同様にインタビュー及びアンケート分析から導き出した課題を整理したものになります。また、本日配付させていただきました工業分野の赤い枠のついたもの、こちらを併せて御覧ください。こちらの分析結果というのが、アンケート結果から問題を把握しまして、参考にして導き出させていただいたようなものになります。

農業同様に工業におかれましても、取りこぼしている問題でしたり、効果的だと考える対策案などございましたら、御意見頂ければと思います。

また、解決の方向性について異論がある場合や、代替案、追加案がございましたら、併せて御意見頂きたいと思います。工業分野に関する説明は以上でございます。

○事務局 1点追加させていただきたいと思います。今回、工業団体分野の委員から事前意見をお聞きしている意見ですが、それぞれの解決策の方向性でしたりとか、対応する問題、課題という形で、ばらばらに入っているもので、これは課題だということ言っていたきたく考えております。

○委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から、市の工業の現状と課題、基本方針の方向性について御説明いただきました。御不明な点、確認したい点、もう少し詳しく聞いてみたいということがありましたら、遠慮なく質問をお願いしたいと思います。

まず、この分析自体が的確なのか、そういったところも含めて忌憚のない御意見を賜りたいと思います。特に工業関係の委員の皆様、御専門だと思いますので、遠慮なく意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

この小さいやつが一番分かりやすいと思うのです。非常にコンパクトに抜き出してきていて、課題と対応する問題、解決の方向性、意見という形で区分けしているのですけれ

ど、どうも対応する問題で見ていくと、人手不足と、真ん中にある上下水道や16号につながる道とかインフラ関係の問題ですよね。最後に、事業承継の相手がいない。その3点が大きな問題のようで、そこを具体化した課題というのが、左端に記載されている5つの課題だと思います。それに対応する形で、解決の方向性、意見が展開されているという理解でよろしいのかなというふうに思っております。工業団地の当事者の委員の皆様、よろしくお願いします。

○委員 協議会の●●をしております●●です。この白井工業団地というのは、今から60年前にできた工業団地でして、その当時から見ると、今の工業団地の状況は、いろいろ大きな問題を抱えている。特にインフラということが言われているわけですが、そうした問題について、どうすればいいのか、何が正解なのというところが見えていない。

これについては、工業団地をプランニングする都市計画の専門家に、この工業団地の現状を分析してもらいたい、診断していただきたい。何が問題なのか、どういった問題があるのかを洗い出していただきたい。その問題について、一つ一つ、解決できるものは解決していく。そのように順番を踏んで取り組んでいければというふうに思います。

個々の現象について、いろいろと問題は挙げられるのですが、個々の問題ではなくてトータルとして、プランニングをつくったらいんじゃないかと考えます。

それについては、この工業団地は、固定資産税とか都市計画税を納めていると思うのですが、こういった資金の使途について、どの程度割り当てられているものなのか、例えば都市計画にどれだけ予算を充てているのですかというようなことについても、回答していただければ参考になると思います。

都市計画を描いてもらう、診断してもらうにしても、予算がありませんというのがこれまでの常の答えです。それについて、我々はそれ以上踏み込むことができていない。そういったことも含めて御検討いただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございます。確かに埼玉でこの間あったとおり、インフラの老朽化に対する手当の遅れが悲惨な事故を起こしたという例もございますので、インフラの整備については、インフラの更新ないしは長寿命化、そうした取組について、工業団地ができて60年も経っているのですから、やはり考える時期ではないのかなという意見を私も持ちます。

ほかに委員の皆様いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 ●●と申します。工業団地の問題というのは、ここに書かれたところというのは、ずっと市への要望書としてまとめてきたところまで、そのとおりでございます。なかなか解決策のところが、解決策の方向性、例えば大型車が通れない工業団地はないわけですよね。恐らく世の中にそういうところがあるのかということも、非常に異常な状態が何十年も続いている。

それはなぜかという、最初は、地元住民の皆さんの了解を取ってください、そういうふうに警察は言うわけです。それから市のほうは、大型車規制は交通の問題なので、警察へ行ってくださいと。どちらかという、ぐるぐる各部署をたらい回しで、それで40年経ってしまったのです。

これはどうしようもないので、今は一つ一つひもといでいこうというようなことで活動し始めたのですけれども、やっぱり行政の支援というのが、県も含めて欲しいなと。強い支援といいますか。

水道については、工業団地に下水道は来ていますよね。上水道がないというの、ある意味、今の世の中で上水道のない工業団地があるということが、もっとアピールすべきなのではないかなというふうに思っております。今までは市への要望という形、または警察への要望という形でやってきたのですけれども、そこから一歩出る、もう手がないのかなというふうに思っている最中です。

ここにある課題はこのとおりなので、解決策のほうにもう少しパワーを欲しいなと考えます。例えば大型車規制緩和に向けた情報収集などを行うというのは、我々、相当したつもりなので、パワーが欲しいです。政治的なパワーも行政的なパワーも両方ないと、どうも動きようがない。例えば大型車規制の問題を警察署長さんに聞きに行きました。そうしたら、それは成田闘争のときに係った規制だということなのです。成田闘争って何年前ですかね。成田闘争が終わって、もう何十年もかかっているのですけれども、一回かけた規制は、取るのがすごく大変なのです。それは行政と政治の圧力がない限り、市民の力ではなかなか取れないというのが今のところの現状です。ぜひ、お願いしたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。簡単に言うと、笠井市長、頑張れと、俺たちのために頑張れという趣旨のことだと思います。

ほかに、工業団地の委員の方に伺ってみたいのですけれども、門外漢で恐縮なのですが、白井の工業団地から、もっと利便性の高い工業団地にお引越ししちゃうというような考えというのはあったのですか。

○委員 中には印西の工業団地という例があります。

○委員 やっぱり単価が違うんですよ。白井の工業団地はやっぱり安い。

○委員 かつてね。

○委員 新しく県で工業団地をつくられたところの単価と比べると、2倍から3倍ぐらい違ったんじゃないですかね、当時。今はどうか分かりませんが。

○委員長 今もう60年も経っているから環境は変わっているのではないですか。それでも白井の工業団地に残り続けるインセンティブとか、動機は何なのですか。それまで様々な資源を投入してきているから、その投入したものが蓄積が大きくなっているから出たくないというような理解でいいのですか。分からないのでお伺いしたい。

○委員 これは個人的な意見なのですが、そこへ投下した投資額と、それからそこで売却

できる売価でほかへ移転しようとする、極端に言うとも3分の1の面積になってしまうということで、そのインセンティブは、なかなか働かないという感じだと思います。

○委員長 単純に、大型車通すのなら、どこかへ立ち退いてもらって道を広げるしかないじゃないですか。そんな単純にはいかないというのは重々承知しているのですけれど。

規制の解除だけで、工業団地としては望ましい結果が得られるのだったら、規制の解除はやったほうがいいと思うのです。やっていただいたほうが。成田闘争のときにできた規制だと言われても、もう成田空港自体、反対なんていうことは、あの地域の人たちは言えなくなってしまっているのです。むしろ成田空港とともに生きていくというようなことを選んでいるわけですから。だから、そこは頑張りどころじゃないかなというふうに思います。

●●委員、お願いします。

○委員 工業団地の中で大型車の通行ができないと聞き及んでおります。これは地元住民の方の要請で通行止めになっているというケースが多いです。なぜかという、工業団地内に通学路がある、その通学路で事故が起きた、ですから危険だ、だから通行を止めてくれという要請があって、止められているという区域もあります。

これは、工業団地なのに、なぜその中に通学路があるのかといった初歩的な大きな問題です。言い換えれば欠陥工業団地なのです。しかも、工業団地なのに外周道路がない。つまり、一般住宅と工業団地が混在していて、区分けすらしていない。最初から大きな問題をはらんだ工業団地であったのです。

しかし、この工業団地をつくった当初の町長は、皆さん東京へ出稼ぎに行っている。出稼ぎに行く方々のために、ここに工業団地を誘致すれば、働くところができる。ですから地域の住民のためにも、工業団地といってつくったのだけれど、そのつくった工業団地に欠陥があるということなのではないのかなと思います。歴史的なそういった経緯を踏まえてどうしたらいいかということをお互いに知恵を出し合って、せめて外周道路ぐらいはつくらないと。今、市長さんは一生懸命頑張って、外周道路1本通していますけれども、その1本だけで大丈夫かというところがありますので、今後の成り行きを見て、私たちも一緒になって解決していければと思っております。ぜひ皆さんの御協力と御理解をよろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございます。通学路の件に関しては、これだけ少子化が進んでいるのだから、学校を統廃合する中で、何か解決しそうな可能性があるような気がするのです。遠方になる児童に対してはスクールバスを出して、ただ利便性を増すというだけではなくて、安全を買うという観点からも、検討の余地はあるのかなというふうに私は思います。

○委員 通学バスは出しているのです。ですね。

○事務局 そうですね。小学校については、バスのほうは出ておりますが、中学校のほうはまだです。私は白井中学校出身なのですけれども、今井とか名内のほうから生徒がまだ

何人か通っているのが現実です。

○委員長 ●●委員、お願いします。

○委員 今の委員長の御提案で、統廃合の末スクールバスかというのは、もう当たり前を考えないといけない時代だと思います。統廃合することによって教育の質も良くなるし、1人当たりにかかるコストも、もっとかけられる。スクールバス化というのは、アメリカなんかは昔、当たり前だったですよ。広い土地だから、それしか方法がなかったわけです。だから本当にその方向というのは、市として強化していったらいいのではないかなと個人的には思っております。

○委員長 ほかに委員の皆様いかがでしょうか。

事務局、お願いします。

○事務局 先ほど意見という形で出ました解決策の方向性についてということで、こちらのほうに今、記載されている事項というのは、結構、抽象的に書かれていたり、弱い意見が多く書かれております。こちらのほうについては、前向きな形で再度、記載をさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ●●委員。

○委員 くどういですが、地区開発の計画予算、これを1億とか2億とか予算化して具体的に、都市計画の全体像を描き出していきたいと願っております。予算がないのでできないというのが、いつも答えなのです。

○委員長 どうぞ、事務局。

○事務局 今ここでやりますとは少し申し上げにくいですが、それに向けて調整していきます。

○委員長 解決策の方向性をもう少し掘り下げた方がいいですか。先ほど事務局から説明が、依頼を受けたような気がしたのですけれど。

●●委員、お願いします。

○委員 一番上の人手不足のところの意見のところに、駅から工業団地に対するアクセス、公共交通機関、アクセスが少ない、不便があるという、これをぜひもっとメインタイトルのところに引き上げておいていただいて、解決策の方向性のところに足していただきたいなと思います。

○事務局 分かりました。対応いたします。

○委員長 それに関連させてなのですが、うちも自宅の近所に食品団地があって、そこにAmazonさんが来たのです。名前を出して恐縮ですが。千葉駅からAmazonさん専用のバスを出しているのです。白井の駅から工業団地に行くバスの便を増やすとかいうことはできないのですか。

採算が合うのであれば、シェアしてもらって、工業団地の中に従業員を多数抱えていらっしゃると思うから、そういう人たちが利用したいというのを実際にアンケートを取っ

て、それで利用者が分かれば、採算が乗るのであれば、乗り合いのバスも考えてもいいのではないかなと思うのですが、これは現実的ですか。

○委員 工業団地の会社アンケートを取ると、ほとんどがマイカー通勤なのです。それで公共バスが便利になったら乗りますという人の人数が非常に少ないのです。そのところも解決していかないといけない課題ですので、採算ということからすると、レインボーバスさんが通っているわけですが、そちらは採算が乗らないので縮小していきたいという方向なのです。だから採算ということを見ると、なかなか難しい。

それで、今度、従業員の人も、割とわがままで、便利になったら乗るかもしれないみたいなそんな感じなのです。ですから、そのところを今、中心でやっていращやるのが未来創造戦略室の工業団地活性化プラットフォームという事業をやっているのですけれども、そこで今その問題を解決しようとして検討している最中です。

○委員長 何かインセンティブをつけるしかないのですかね。

○委員 それも、市の予算がつかないということなので。

○委員長 ●●委員、お願いします。

○委員 その問題については、例えばこの地区にモータープールをつくって、そのモータープールまでアクセス道路を通してモータープールから工業団地内に自動運転バスを、無線バスを実験的にでも、ぜひ走らせてくださいというふうな取組をして、国の予算ももらって一緒になってやっていくような施策も打ち出していったら面白いのではないかなと思います。とにかく自分たちだけでやるのは非常に厳しいので、国の予算、県の予算、市の予算で、そういった自動運転バスを走らせていただいたらどうなのだろうと思っております。単なる思いつきのアイデアなのですけれども、御検討いただければと思います。

○委員長 ほかに委員の皆様いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 ●●です。僕の家も工業団地のすぐそばにあるのです。それで周りの人に聞いたら、工業団地の各企業の駐車場が足りないという話を伺ったのですけれども、それは本当なのですか。

○委員長 どうぞ、●●委員。

○委員 工業団地の事務局では、各地区の地主さんと交渉して駐車場を借り上げております。そこに、それぞれの企業の車を対処している状態があります。

そういったことを考えると、大きな市街化調整区域とか、そういったところにモータープールをできるのであれば、車も無駄な通行をしなくても済む可能性があります。

それに併せて、通学路の問題とか、いろいろなほかのことにメリットがあります。また、観光にも使えるかと思うのです。都心から1時間で来られる農業観光があります。モータープールに車を置いて、この地区で梨狩りをするとか、ブドウ狩りをするとか、観光農園が考えられるのではないかなというふうに思います。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員長 ほかに委員の皆様いかがでしょうか。

後継者問題はいかがですか。ここに事業承継の相手がいないとか、後継者候補のマッチングを促進したいとかいうような課題や問題があると記載されているのですが。

●●委員、お願いします。

○委員 後継者については、ここ数年で3社ぐらいが後継者がいなくて、関連の親会社を買ってもらったとか、あるいは同じ系統の事業所に合併をさせてもらったとかという会社が既に3社ぐらいあります。

そのほか、社長以外は全て外国人の研修生だと。社長が終わったら、その会社はつぶれてしまうというような状況で、後継者を育てていくのが非常に中小零細企業は難しい面があります。

また、農業も一緒でしょうけれど、大体、家族経営について、農業後継者はほとんど高学歴です。大学まで行っています。大学を出て、農業に戻ってくるのは、一回ほかのところへ出てからです。中小企業、零細企業の後継者と思われる方も、一回外へ出てしまうのです。同じ会社で親と一緒に会社を育てるというよりも、一回外へ出て、それから戻ってくるのと、戻ってこないのとという状況で、これはどこの業種でも同じかなと考えます。工業だからということではなくて、農業も商業も同じで、やはり家業の魅力をいかに継続させるか、そこが一つ経営者にとっては大きな課題になってくるかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

では、特に質問がなければ、御意見がなければ、工業については、これで締めさせていただきますと思います。この後、何か思いついた、言い残したことがあるということをお気づきになった方は、事務局のほうにどうぞ連絡を取ってください。

では、次の議題に進んでいきます。議題3の次は商業分野について、現状と課題・基本方針の方向性について、事務局に説明をお願いしたいと存じます。お願いします。

○事務局 それでは、商業分野について説明させていただきます。今までの二つと、構成は同じような形で作らせていただいております。

38ページの全体像については割愛させていただきますが、御覧のとおりという形になっております。

39ページから50ページまでは、今までお示しさせていただいたとおりで、現状分析及びアンケートの分析という形になります。

飛ばしまして51、52ページを御覧ください。

ここからが新しい部分でインタビュー結果の部分になります。これまで同様に表の構造といたしましては、2列目が商業事業者から得られた問題を事実として書かせていただいて記載している部分になりまして、3列目は、2列目にある問題の背景にある構造及び原因の分析結果という形で記載しております。

続きまして、53ページを御覧ください。

これまでの二つと同様に、アンケート及びインタビューの分析により導き出した課題という形で書かせていただいている部分になります。

ページが戻りまして46ページを御覧ください。

46ページの分析結果は、こちらのアンケート結果、右側の表の事業の見通し別の今後注力したい取組から問題を把握しまして、参考にした上で導き出したという形になっております。

このほかに、本日配付させていただきました商業分野における事前の聞き取りというものを御報告としてつけさせていただいております。

これまでと同じように、取りこぼしている問題でしたり、より効果的と考えられる対策案、また、解決策の方向性について、異論や代替策、追加案があれば、同じような形で御意見頂ければと思っております。

商業分野においては、報告は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から、商業分野について、市の商業の現状と課題、基本方針の方向性について説明をしていただきました。御不明な点、確認したいこと、もしくは、もう少し詳しく聞いてみたいところがございましたら、遠慮なく質問や御意見をよろしくお願いします。また、特にこの分野に関しては、商業関係の委員の皆さんに、当事者として意見を伺ってみたいと思います。では、お願いします。

○委員 白井市商工会の●●と申します。商業分野ということで商工会なので、商業、工業ともに関わっているところでございます。

まず、工業に関しましては、先ほど工業団地協議会さんのほうから御意見等がありましたとおり、やはり通勤とか、そういった面の関係で従業員の方が困っているという形も見受けられます。

また、各社で独自で送迎バス等もやっているところもございまして、そちらもかなり会社に大きな負担があるのかなと考えているところです。そういった方たちも巻き込んで、共同でバスを運行して、コスト削減の方向性を考えてみたらどうかというところも、商工会のほうで考えております。

また、商業に関しましては、商工会の会員になりますけれども、年々、減ってきています。何が問題かといいますと、経営者の高齢ということで廃業する方、または、白井から隣の市町村等へ移転する方がいます。それは何かという掘り出しはしていませんけれども、ちょっと不便になっているところの方たち、建設業が結構多いのですけれども、現地まで行くのに渋滞しているとか、道路の状況が悪いとか、そういったことから移転される方もいらっしゃいます。

小売店に関しましては、今、市内で商工会のほうなのですけれども、商業とされる方が95社しかいません。その中で、半分半分ぐらいになりますけれども、個人と法人というこ

とになっていますが、大体、商工会としましては、家族経営の方がほとんど、会員になっていただいている方がほとんどです。それに伴って、高齢化が進んできているといったところでございます。

あとは、現に小売業としましては、ネット販売とか、そちらのほうで皆さん簡単にいろいろな商品をスマホとかインターネット等で購入できる。また、重たい荷物も持たないで自宅まで、例えば水とかを運んでいただいているということから、やはり市内の小売店は、かなり厳しい状況でございます。

住民の方に関しましては、最近、ベルクさんもできまして、大型店が市内に結構、ところどころに存在しておりますので、一度に車で買いに行けると。大量に荷物を持っても、車までカート等で運んで自分の車に積み込めるという手頃から、大型店のほうに消費者が流れています。

一方、小売店のほうは、駐車場等が全くない状況がほとんどです。ですので、徒歩で行ける住民の方たちが、ちょっと足りない商品等を買うために使っているのではないかなと思っております。

あと、白井駅前の商店街がありますけれども、今はほとんど商店というのはなくて、塾とか病院とか薬局とか、そういったものになってきています。

また、当初オーナーでやっていた方が不在になり、店舗貸し、不動産業になっているところで、商店街の役割を果たしていないのではないかなと思っています。以前は、それこそ肉屋、野菜、酒屋、米屋がありましたけれども、今はほとんどない状況です。

前にも、白井駅前に関しては、事業活性化ということで、開発に取り組んでいるようなところも聞いております。事業活性化ということで、今後、地元の商品とか商工会を含めて、今後こういった状況になっているのかを聞いてみたいなと思います。商工業に関しましては、そんなところだと思います。

○委員長 ありがとうございます。多岐にわたる問題をいろいろ指摘していただいております。ありがとうございます。

解決策については、いかがお考えになられますか。その解決の方向性について、幾つか提示されているのですが、問題ごとに、開業資金不足、人手不足、コスト高騰、販路・仕入れの拡大、廃業などの問題が指摘されて、それに対応させるような形で解決策がいろいろと示されているのですが、これが妥当なのか、ここ抜けているよというものが商工会の立場からあるのであれば、御指摘ください。

○委員 まず、開業資金不足ということで、商工会と市のほうで創業塾というものを毎年やっています。15人程度、市内で開業したいという方が創業塾に参加されています。

しかし、その後、開業する方があまりいない状況です。その中でも開業資金ということで、かなり手持ちが少ないこともあり、融資等もかなり厳しいことを聞いています。

商工会としても、日本政策金融公庫さんとタイアップをしております、商工会から推

薦を上げることも可能となっていますが、なかなか手持ち資金がないと融資のほうにいかないということもあって、困っているところではございますけれど、市のほうでも新規開業資金ということで融資制度もありますので、そこら辺の審査方法とか、ある程度緩和していただければなと思っております。

○委員長 今、開業資金についてお話しされましたが、新規で開業したいという方々は、ほぼ未経験ではないですか。そういう方の事業計画が甘すぎるというような点はありませんでしたか。

○委員 事業計画の点に関しては、大体、今まで働いていて、サラリーマンをやって脱サラして、まあ、こんな感じだろうという確かに甘い考えの方も中にはいます。そこで商工会が指導していきながら、こういった事業計画案を作り、あとは、公庫の方を参考にお越しいただいて、事業計画案をつくるということを申し上げてはいるところですが、基本的には、手持ちがなくても、すぐ開業できると、開業する方の意識の低さが見受けられると思います。

○委員長 それは僕も感じます。ありがとうございます。

どうぞ、事務局、お願いします。

○事務局 商工会さんと共催事業にはなるのですが、週に2回ほど、今日がまさにその日ではあるのですが、中小企業診断士の先生にお越しいただいておりまして、開業までに向けた相談というのは、乗れるような体制をつくっております。今日もまさに相談に来ていらっしゃる方がいらっしゃるのですが、一応体制としては、そのような準備はしているという形になります。

○委員長 そこに私は不満があります。開業に対しての中小企業診断士を入れて助言させるというやり方も一つの手なのですが、その後、キャッチアップしていかないと、1年ぐらいは伴走しないと、素人が商売を始めるのは、それで成功するのは無理です。そういう例はいっぱい見えています。だから、もう少し厳しいことを言える人を用意したほうがいいと思うなというふうに、私の経験測から、よく思います。

既存の事業者の方が事業拡大をするときという点については、どのようにお考えになりますか。そこはもう経験者ですからいかがでしょうか。

○委員 事業拡大としましても、現状では、事業拡大を考えている方はほとんどいないのではないかな。事業を拡大するにしても、自己資金とか、ある程度の資金がなければ事業拡大までいかないのかなと思っているところです。

まして、二代目、三代目がいても、その人たちが継がないで、または、ほかに出て働いていると。戻ってきた頃には、もう年齢もかなりいっていて、遅いのではないかなというところもあります。事業拡大につきましては、今現状では難しいところかなと思っております。

○委員長 ありがとうございます。ほかの皆様いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 ●●です。今の事業拡大の話で言うと、やはり人手不足が深刻みたいで、仕事はあるけれども、できないからお断りしているというケースを結構聞くのです。現状維持がやっとなのに、新規事業、事業拡大という、かなり厳しい状況が結構あるのではないかなということは、僕なりに見て思います。

○委員長 ●●委員に質問なのですが、仕事をお断りする状況というのは、一般的に言うと幸せな状況なのですかけれども、引く手あまただろうと。だけど、その仕事自体の質ですよ。利益がきちんと見込める仕事なのかという点はいかがですか。

○委員 僕の会社は、そんなことはないのですけれども、周りの一緒に付き合っている人間の話を見ると、単価が安くはないけれども、できない。人手がいないので、お断りしている。それこそ九州までリクルートに行ったりしているのだけれども、それでも人が集まらないというのは、すごく話を聞きます。

○委員長 もうかってしょうがないということではないのですか。

○委員 もし人手がいれば、多分すごくもうかるのではないかと思います。

○委員長 大手がやらないことを地域密着型の個人店や会社さんが手がけるのだろうなというイメージなのですが、そういう調査もあるのです。やっぱり大手が取り組まない事など差別化を図っていらっしゃるのです。

○委員 差別化かどうか、大手さんがやらないことに関しましては、最近、問合せ等があります。こういった業者さんを教えてくださいというような電話が商工会にかかってくる。そうした場合に、多分、大手ではできない個人店なので、その方たちを御紹介して、その後、付き合いができるのです。ですので、そういった方たちの中にまたあそこをお願いしたいということをおっしゃる方もいますので、そこは商工会の会員の方に関しましては、ある程度、事業拡大ではないのですけれども、一つの例えば電球を交換したことによって、それに付随した何か大きな仕事が入るというようなことも多いと思います。

○委員長 門外漢のアイデアなのですかけれども、今伺っていて思ったのですけれども、商工会が窓口になって、白井市のお困りごとを解決するというようなことを白井の市民の方に伝えるチャンネルみたいなものはないのですか。

○委員 以前、商工会の会員名簿等、市内在住の方に全戸配布をしたことがあります。それは何かといいますと、商工会の会員の方でお助け隊ということで、何でも仕事をやりますので、お困りの方は商工会または、そこに書いてある名簿を御覧になってくださいということを10年ぐらいになりますけれども、その名簿を1回配布したことがあります。

ただ、配布した当初は、皆さんから問合せ等があったのですが、その後、全くなくなってしまい、その後も発行はしていないところでございます。

ただ、商工会のホームページがございますので、そちらを見ていただくか、あとは市の商工会の会報を新聞折り込みで行っています。そこに住民の方たちへという形で、広告というのですか、何か困りごとがありましたら商工会のほうまで御一報くださいというよ

うな記載をして発行しているところです。

○委員長 住民の方々に、情報は提供し続けているという理解でいいですね。時々あるじゃないですか、訳の分からない電話がかかってきて、壁が壊れている、屋根瓦が壊れているというような、高齢者の方々を不安にさせるような電話ってあるでしょう。そういうことが社会問題になっているから、商工会に何か困ったことがあれば尋ねられるということは、白井の方は、みんな知っているという理解でいいのですか。

○委員 新聞は全折り込みにしているので、知っているかなという認識でいます。ですので、最近はいろいろなところから、こういったところを直したいのですが、どこか紹介して、何でですかと聞くと、やっぱり知らないところは嫌だと言うのです。飛び込みで来ている方も中にはいるそうなのですが、前に失敗したとか、そういったことがあるので、そういった方たちは不安になるので、市か商工会に連絡が来ます。市のほうに行った場合は、全部商工会に振っていただけているのかなというところです。

○委員長 事務局、説明をお願いします。

○事務局 実際に市としては、広報にそういう内容を書いたり、市自体にいい業者さんはいないかというような市民の方からの問合せというのも、実際あるようなところになるのですが、今、委員さん御説明いただいたように、商工会さんに橋渡しという役割をさせていただいているというのが現状でございます。

○委員長 ありがとうございます。

私、千葉市在住なのですが、時々困ったことに直面するのです。そうしたときに誰に相談していいかって、よく分からないのです。そうしたときに、市に飛び込んで、言っているものかというふうによく考えさせられるのだけれども、何とか知り合いとかに聞いて解決することを目指すのだけれども、そういう窓口が白井市の場合は、市役所もその機能を果たしているわけですね。それが、どの程度、市民に周知されているか。

若年層が知っているかどうか分からないのです。若年層は、ほとんど新聞を取らず、読まない。ネットのニュースしか見ないのです。だから、そういう子たちが特にこれから困ってくるのだらうなというふうに思うのです。そういう人たちにアピールすることもある考えたほうがよさそうかなと思います。ほかに委員の皆様いかがでしょうか。●●委員、お願いします。

○委員 困っていることといえば、やっぱり人手不足でしょうかね。これも103万円の壁というのがありまして、11月、12月になると、パートさんが出てこなくなってしまう。結局は、失注してしまうというか、納期が遅れてしまうという深刻な問題があります。こういった問題について、市でそういうことをお断りして解決できるのかということになりますけれども、非常に素晴らしい考えを持っている方がいるのです。

●●さん、申し訳ないのだけれども、税の103万円の壁に対して、そんなのやめてしまえと。税率の低い税金を一律にかければいいのだと。1兆8,000億の税収が上がったら、税

をもっと下げるといような政策を打ち出せばいいんじゃないのかと。働きたい人は24時間働いていいんじゃないのかと。何でそれを働くな、働くなといって、やっているのだと。私も聞いてびっくり、そうですよね。日本人にとって、働くということは美德なのに、海外では美德とはみなさないと。かつては24時間、たばこを売っていて、日本が世界一のナンバーワンになったら、それを何とか引きずり下ろそうと思って、そういう施策を打ち出しているのかと勘ぐってしまうような状況ですよね。ぜひ、みんなで力を合わせて、そういった問題を解決していただけたらなと。僕は、その辺は上手く言えないので、●●さん、お願いします。

○委員長 御指名ですので、●●委員、お願いします。

○委員 103万円の壁とか130万円、あるいは社会保険の関係ですね。壁をいくらずらして高く持っていっても、壁は壁なのです。壁は全部なくして、全部一律、社会保険も全て一律。掛け金を収入に応じて設定していけば、皆さん平等になるはずなのです。壁をつくるのは、一つの既得権を政治に与えているような状態で、そこは全てクリア、平等したらどうかと。

社会保険は、我々も手続をやりますけれども、週の時間数だとか月の賃金の金額によって、入る、入らない、この判断はいろいろと複雑で分かりにくいです。特に働いている方は、そんなことは全然分からない。皆さん一律、壁をなくすというのは、私の個人的な考えでございます。

もう一点言わせていただくと、人材不足のことです。転職サイトが最近はやっていて、せっかく育てた人材を引き抜かれてしまう。これは会社にとって非常にマイナス、大きな損失なのです。今、政治のほうでも、全体の流動化、労働者の流動化というふうに言っていますけれども、流動化は果たしていいのか。企業にとっては、非常にマイナス面を含んでいる。これは商業もそうなのです。

人材不足の解決策の一つは、やはり福利厚生を充実させて、長く会社に勤めていただくのが会社にとっては大きな利益になる。また、当人にとっても大きな利益になるように企業が努力をするというのが本来の姿かなというふうに思っています。

何でもかんでも外国の制度を取り入れるのは、少し日本としてはどうかという疑問ですけれども、人材不足の解決策の一つ。やはり会社では福利厚生を充実させて、人材の流動化を防ぐというのが事業の手段の一つかなと思います。

○委員長 ありがとうございました。

お時間の関係もございますので、商業については、これで打ち切らせていただきたいと思います。もし質問や御意見がありましたら、後ほど事務局にお寄せください。

では次に、議題の4の市の分野横断的な連携について、進んでいきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 説明させていただきます。こちらの分野横断的な連携についてですが、冒頭申

し上げたとおりで、観光業の在り方も含めてという形で御審議お願いできればと考えております。

55ページですが、市の観光業における全体像の現状という形で記載させていただいております。説明に関しては、こちらも今まで同様に割愛させていただきます。

次に、56ページを御覧ください。

こちらは、令和4年の千葉県観光入込調査報告書というものになりまして、白井市は下から4番目に記載されておりまして、左から3列目です。こちらが観光の入込客数という形で表記させていただいております。

白井市の観光業の入込調査の内訳として、ゴルフ場3軒で約20万6,000人、プールで約4万4,000人、白井の湯、日帰り温泉です。18万7,000人と記載されております。ただし、単独施設で一番の集客のありました白井の湯につきましては、令和5年1月31日で閉店となっているというのが現状となります。

このことから、令和5年度の集計につきましては、こちらの18万7,000人が削られるような形で、約30万人程度という見込みとなっております。

一方、近隣市におかれましては、こちらが印旛地域という形で載せさせていただいているのですが、成田市、酒々井町、印西市でしたり、桁違いに多い市が、現状としてはすぐ近隣にあるということをお伝えさせていただいております。

続きまして、57ページを御覧ください。

観光分野における世界を含めた取り巻く情勢という形で記載させていただいております。こちらに関しましては、コロナ前と比べましてインバウンド、国内旅行を含めて回復しているということをお示しするものになります。本日の資料にはございませんが、令和6年の最新のデータというところで、年間訪日客数、外国人の方が3,700万人と、コロナ前である19年から比べましても、15%ほど伸びておりまして、過去最高数になっているというところが年明けのデータとして出ている状況でございまして。こちらの資料から申し上げたいこととしましては、日本全体で見た場合、インバウンドの数含めて、観光業というものは追い風になっているというところがお伝えしたいところになります。

次に、58ページを御覧ください。

市の現状や観光業を取り巻く状況から、事務局で考える課題という形で載せさせていただいております。今までのところから、現時点では、観光業単独で事業を行うということが、事務局としましては困難であると考えておりまして、これまで挙げさせていただきました農業、工業、商業と一体的な事業を構築する必要があると考えております。

また、市単独でこれらの課題に対応することが困難であることから、近隣の自治体や民間企業さんと協力体制を構築しながら、市に適した観光業を検討する必要があると事務局では考えておりまして。

次に、59ページを御覧ください。

今、前のページで申し上げた農業、工業、商業と一体的な事業の構築、また、近隣自治体や民間企業等と協力体制の構築の説明をイメージ化したものが、右側の次期産業振興ビジョンの姿であるのではないかと事務局としては考えております。現状といたしましては、こういう立ち位置がよろしいのではないかと考えております。

これまで説明させていただきました白井市の観光業における課題について、また、分野横断的な連携について、こちらに関しても、異論がある点や代替案、追加の案があれば、御意見頂ければと思います。

市の観光を含めた分野横断的な連携についての報告は以上となります。

○事務局 追加で説明させてください。先ほど牧野から申した現時点での観光という単独で事業を行えていないということなのですが、その内容の57ページなのですが、今、日本全国でインバウンドの追い風が吹いているよということなのですが、白井の状況を見ますと、56ページの表にも書いておるのですが、観光のところでは少し出遅れているという現状になっております。

ですので、こちらのほう、観光を事業としてやることは、かなり難しいのかなと。ですので、今後は農業、工業、商業ということで、例えばイチゴ狩りだったり、観光農園とか、農業の中の一部という形で考えて観光に持っていったりとか、そういうところです。

あと、工業、商業につきましては、第6次産業を目指すとか、そういう形で今までにない形を検討していきたいと、事務局では考えております。

○委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から、市の分野横断的な連携について説明をしていただきました。これについて御審議をお願いいたします。委員の皆様いかがでしょうか。

簡単に言うと、これはデータが表しているのですが、ここでの焦点は何かというと、観光を単独のものとして議論をするのは、データから見ると、56ページの印旛地域の観光入込客のデータから見るとおり、積極的な意味があるのかと思います。それよりも、農業とか工業とか商業と関連づけて議論したほうがよさそうじゃないのかという御提案なのですが、その点について、いかがですか。

データを見せつけられたら、学者としては何にも言いようがありません。

ちなみに、お隣の印西市がなぜ120万人いるのか。何があるのですか印西市は。教えてもらっていいですか。酒々井とか成田とか佐倉は想像がつくのです。

○事務局 印西なのですが、イオンとか大型商業施設というところも入ってきて、なおかつゴルフ場も入っておりますので。今こちらの印西のほうですと、宿泊施設が今現在、これは4年の時点なので、1社しかないのですが、今また増えているので。東横とか新しいものが増えていますので、そちらのほうでまた今後、増えていくのではないかと思います。

○事務局 ゴルフで言いますと、ZOZOのカップなどテレビで放送されるような大き

い大会があったり、集客するようなイベントは多いのかなと思います。

○委員長 これは痛いですね。これだけ差をつけられると。

じゃあ、事務局提案でよろしいですか。ほかの農業、工業、商業と関連づけて観光は議論するということ。

議題については以上なのですが、ほかに委員の皆様、何か意見を申したいことなどございますでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 最後のページにあるような形で、企業を取り込んでいって新しいテクノロジーだとか新しい産業を生んでいく。先ほどの農業の I I J さんの取組というところが一つの事例なのかなと思っていました。そういったところも多分、今日は触れられていなかったのですが、工業や商業に広がっていくと、そこがどんどん循環していくのかなと思いました。というところが思ったところで。

ほかの自治体様も見ていただいていると思うので、いろいろな自治体様で視察に行かれて、例えばスマート農業だったら北海道の更別村さんとか、すごく進んでいるので、そういったところでジャガイモのスマート農業を学んでいただいたりとか。そういうところも今、私の仕事でも、先ほど自動運転という話されていましたが、自動運転を全国に広めるような仕事をしているので、そういうところも、ぜひ情報を共有させていただきながら、何かできることがあれば、白井市のためにと考えております。

以上です。

○委員長 似たようなことを僕も申し上げようと思っていたので、●●委員の発言は大変有益かなと思っております。

総称するのであれば、テクノロジーとの連携ですよね。その担い手が企業が中心になってくるのですが、行政と企業、そして農業、商業とかも連携させていく。そうすると、連携が意味を持ってくるので、その点については、今後より深く考えていかないといけないのかなというふうに思います。

ほかに委員の皆様、御意見や発言等ございますか。

○委員長 ありがとうございました。委員の皆様、御熱心な審議ありがとうございました。議事が全て終了いたしましたので、事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○事務局 委員長、ありがとうございました。

以上をもちまして令和6年度第3回白井市産業振興ネットワーク会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。